

北海道各地から産出する黒曜石
その64

～分析方法と各組成グループについての特徴～

～その3～

(8)置戸Ⅰ組成グループ

置戸山から採取される。置戸Ⅰ組成グループは、図1において、 $\text{CaO}/\text{Al}_2\text{O}_3$ 比が0.073～0.079、且つCaO値が0.93～0.99wt.%の値を示し、加えて、 $\text{Na}_2\text{O}/\text{K}_2\text{O}$ 比が常に1.0を超えることが特徴である。

(9)置戸Ⅱ組成グループ

墓地の沢A、墓地の沢B、所山Aで採取される。図1より雄武組成グループ、紋別組成グループにも近似する。しかし、置戸Ⅱ組成グループは、雄武組成グループと比較した場合、図2においてFeO値が0.91wt.%以下であること、同様に紋別組成グループと比較した場合 Al_2O_3 値が12.33wt.%以下であり、Cl値が0.06wt.%以上であることが特徴的である。更に、紋別組成グループとは、肉眼でも容易に区別可能である。

(10)遠軽組成グループ

遠軽地域から採取される。図1より他の組成グループにも近似するが、図2において遠軽組成グループのCaO値が0.72～0.75wt.%であり、更に Na_2O 値が3.69～4.46wt.%の比較的高い値を示すことが特徴である。また常に水に濡れたような独特の光沢がこの産地を特徴づける。

(11)雄武組成グループ

雄武地域から採取される。図1より置戸Ⅱ組成グループ、紋別組成グループにも近似している。しかし雄武組成グループは、図2においてFeO値が0.95wt.%以上の値を示すことが特徴である。また、現在まで小さな形状の黒曜石しか見つかっていないこともこの産地を特徴づける。

(12)生田原Ⅰ組成グループ

生田原地域から採取される。図1より他の組成グループに近似している。しかし、図2において、CaO値が0.77～0.82wt.%であり、且つ SiO_2 値が75.14～75.63wt.%の低い値を示すことが特徴である。

(13)生田原Ⅱ組成グループ

生田原地域から採取される。図1において $\text{CaO}/\text{Al}_2\text{O}_3$ 比が0.047～0.053の値を示し、図2では、CaO値が0.63～0.71wt.%、 SiO_2 値が75.47～75.94wt.%の低い値を示すのが特徴である。また生田原Ⅰ組成グループと比較した場合、FeO値が0.90～1.08wt.%の低い値を示すことが特徴である。ただし、これらの値は生田原Ⅰ組成グループと比較して誤差の範囲として捉える事もできる。

※図1、図2は、地学シート No.65、No.66を参照

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

Mukai Masayuki
(学芸員 向井 正幸)

旭川市博物館HP

